
泣かない女

雄

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

泣かない女

【Nコード】

N7128C

【作者名】

雄

【あらすじ】

泣かない女とその彼氏。彼女は最後のときまで涙を見せなかった。ぜんぶぜんぶ夢だと思った不幸な女。それが泣かない女の正体だった。

「重いねん、おまえ」

似たような言葉を前にも言われた。(というか同じ言葉やけど、特別な人に貰った氷よりも冷たい言葉と視線と態度。このつらすぎる状況にただ、ただ、泣かないようにした。

「ごめん」

「いや、それ前もゆうたやん」

「結構な、抑えてるつもりやねんけど、」

「・・・そーゆうとこやねん。腹立つ」

なにを言っても無理だっっていうことは分かっている。

もうお互い違う道を行っていることも知っている。

ため息やら、舌打ちやら、つららになってあたしの心臓を刺す。

“そーゆうこと”ってどーゆうことなんだろう。

わからない、なんて言っと、あたし殺されるかもしれぬ。

かといって無難にいくと、確実に別々の道。(分かりきってるが)とにかく、引き止めなきや。あたしの最愛の彼を。

「あたし、別れたくない」

「分かってるやる？おまえも無理やって」と

「思ってたへんよ」

「なんで思わへんのん。あほちゃう？」

革靴の音が耳の奥で木霊する。

やだ、行かないで。泣いて喚いても、あなたは足を止めることはないでしょう。

ひとりでは広すぎる部屋は、時計とあたしの心臓の音しか聞こえない。

涙が落ちる音も聞こえない。気がおかしくなりそう。

こんなの違う。あたしが理想としてたものと全然違う。

ふと目に付いた、よく切れそうなるがね色の刃物。

よく見ると白い、あたしの左手首に押し付けて、一気に右に引いた。

そこは紛れもなく自分の部屋で、信じられないくらいの汗があたしを蝕んでいた。

カーテンのすきまから見える青白い光は、1日の始まりの象徴。

こんなに朝早くに起きたのは久しぶりだ、と思いながらスリッパに足を沈める。

彼の物がきれいになくなっていくリビングを見て、これは夢じゃないかっただと気付く。

それでも、左手首は白いまま。(これは夢やったんや) どうせなら、その前の出来事が夢だったらよかったのに。

彼の前で我慢していた涙を一気に流した。今まですきだったぶん、たくさん。

もうこれで我慢する必要なくなったのに、何故こんなに出てくるんだろう。

夜なんて明けなくてよかった。真っ暗なんてひとつも怖くない。

あなたに嫌われることが、この世で一番怖いもの。

(多分今ごろ、「あいつは泣かない女やった」なんて誰かにゆうてるんやろ、)

(後書き)

初投稿作品、お目汚しかもしれませんが、コメントや批評など頂けると嬉しいです。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7128c/>

泣かない女

2010年11月5日07時07分発行